

## 第9分科会

座間市教育研究所

森田 明子 矢田 千恵  
伊牟田 健人 江口 裕貴

発表テーマ

副読本「郷土の先人に学ぶ」の活用方法について

### 1 郷土の先人に学ぶとは

『郷土の先人に学ぶ』とは、座間のために力を尽くした先人の高い志にふれ、ふるさとへの愛と誇りをもつきっかけにすることを目的とした本である。座間の教育に関わる人で作成し、ふるさと座間の人と心の歴史にふれることができる内容となっている。

### 2 作成の経緯

座間市教育委員会では学校教育指導計画の中核として「豊かな心を育むひまわりプラン」を平成23年に策定した。これまでの学校教育における重点主題である「豊かな心の育成」について、学校・家庭・地域それぞれの立場で子どもたちをどのように育成していけばよいかを明確にするために協議を重ね、令和5年、新たに「豊かな心を育むひまわりプラン」の改訂を行った。

「豊かな心を育むひまわりプラン」の中には、「めざす大人」について、「郷土への愛と誇りを持ち、国や社会の発展に尽くす」との記載があることから、座間市にゆかりのある人の中から「めざす大人」の実際の例としてふさわしい人々を選び、その人々の「豊かな心」を紹介するために作成された。

### 3 これまでの活用例

座間市の教育研究所 HP に「郷土の先人に学ぶ」の授業を行う上で必要な資料（指導案、板書例、ワークシート、写真など）がダウンロードできるようになっており、これまでの研究員や市内の先生方が作成した資料を活用できるようになっている。

### 4 見直しの経緯

平成26年に第1版が発行されたあと、改訂とともに取り上げられる郷土の先人が増えており、現在は7名の人物が掲載されている。

### 5 学習との関連性

『郷土の先人に学ぶ』は、主に社会科や道徳の時間に扱っている。社会科で扱う際には、地域の発展に尽くした先人や地域の歴史との関連として、道徳では、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」として扱うことができる。

### 6 活用事例（瀬戸吉五郎・大矢弥市）

『瀬戸吉五郎』…養蚕農家に生まれた瀬戸吉五郎は、自ら研究して良い生糸の繭をつくる蚕の品種「座間ブランド」の開発に成功し、生糸の生産を向上させた。明治

42年には日本の生糸の輸出量は世界一位となるなど日本の近代化を支えた人物である。

瀬戸吉五郎の学習指導案では、養蚕業やペリー来航など、歴史的な要素が多いため、そのことを説明することで内容を分かりやすくした。また、瀬戸吉五郎のすごさ（立派なところ、真似したいところ）を考える場を設定し、意見を交流することで、児童の考えが深まるような授業展開を目指した。紙のワークシートをベースにしたが、グループ共有の場では、ホワイトボードや学習用端末のデジタルホワイトボード、画用紙など、授業者がやりやすい方法を選択できるよう指導案に明記した。

『大矢弥市』…大矢弥市は、栗原村の大地主であり、農産物を扱う商人だった。教育にも熱心であり、黒船来航により激変する未来を予見して、私財を惜しまず、栗原に学校をつくろうと考えた。そんな弥市の遺志は、孫に受け継がれ、実現した。

大矢弥市の授業は、学習用端末を使った授業展開を考えた。ワークシートの代わりに授業用の表計算シートを用意し、クイズなどに答えながら授業を進めるようにした。教師目線では、ワークシートを印刷する手間もなく、学習用端末さえあればすぐに授業を行うことができる。授業展開は、プレゼンテーションツールで生い立ちについて学び、問いやクイズで弥市の学校への思いが強くなっていったことを知り、最後に弥市の思いを自分事としてとらえ、郷土のために何ができるか考えるようにした。

### 7 成果と課題

授業用プレゼンテーションツールを指針とし、電子黒板や学習用端末を有効利用することで、小中学校の教員が道徳の時間に取り組みやすくなった。特に、「知る」という目的は十分に果たすことができ、自ら考える場面を授業内で多く持つことで、生徒からは先人についてもっと知りたいという感想が多くみられた。

一方課題としては、作品を扱う年代が、6年生から中学3年生までと幅広く、既習の知識にも差があるため、小学校・中学校でどのページを扱うかをもっと明確にし、難しい言葉には補足が必要である。また、実際に授業をしてもらった先生や見られた先生方からは、もっと活用方法を知りたい、という声が上がっている。授業のやり方によっては、その後の授業の展開がわかってしまうような部分もあるので、さらに教材を工夫していく必要がある。

### 8 今後の研究について

今回の研究で、瀬戸吉五郎と大矢弥市について研究をしてきたことで、7人の「郷土の先人」の指導案とワークシートが、一応そろった形になる。これらは、座間市教育研究所のHPで公開されている

今後は、「郷土の先人」を使った授業に、ぜひ多くの学校で取り組んでもらいたい。また、先生方に授業で使っていただけるように、情報発信と、指導案・ワークシートの改良を進めていく。